

■ 概況

3/30～4/5のNYMEX・WTI先物市場は74.37～80.71ドルの範囲で推移した。

4月6日は、小幅に反発し、5月限終値は前日比0.09ドル高の80.70ドルだった。5日夜にサウジアラビアがアジア向けの原油価格を上げたと伝わり、原油の需給が一段と引き締まっていると意識され、買いにつながった。ロイター通信によると、サウジアラビアは5月物のアジア向け価格を上げた。引き上げは3カ月連続という。先週末には石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の産油国から構成する「OPECプラス」の一部が5月からの減産を表明しており、需給の引き締まりを示す動きが加わったとの見方から原油が買われた。5日発表の週間の米石油在庫統計で原油在庫が予想以上に少なかったことも引き続き相場の支えとなった。

週明け10日は反落し、6日に比べ0.96ドル安の79.74ドルで取引を終えた。3月の米雇用統計がほぼ予想通りの結果となり、市場では米連邦準備理事会（FRB）が5月に利上げに動くとの観測が高まった。利上げで米景気が一段と減速するとの見方が原油相場の重荷となった。聖金曜日で商品市場が休場だった7日発表の3月の雇用統計では、非農業部門の雇用者数の増加幅が23万6000人と、市場予想（23万8000人）並みにとどまった。経済指標の下振れで高まっていた景気悪化懸念が和らぎ、市場の織り込む5月の利上げ確率が上昇した。

11日は、反発し、前日比1.79ドル高の81.53ドルで取引を終えた。石油輸出国機構（OPEC）や非加盟の主要産油国からなる「OPECプラス」の一部の減産が需給の引き締まりにつながるとの見方が改めて意識され、相場を支えた。米エネルギー情報局（EIA）が11日に発表した「短期エネルギー見通し」で、2023年の世界の石油生産量の予想を小幅に引き下げ、23年の原油価格見通しを上方修正した。サウジアラビアなど一部産油国が自主減産を決めたことが反映された。外国為替市場でドルが対

ユーロなどで売られたことも、ドル建てで取引される原油相場の割安感につながった。

12日は、続伸し、前日比1.73ドル高の83.26ドルで取引を終えた。一時は83.53ドルと昨年11月以来の高値を付けた。12日発表の3月の米消費者物価指数（CPI）上昇率が市場予想を下回り、米連邦準備理事会（FRB）の利上げが景気を冷やすとの見方が後退し、原油先物に買いが入った。CPIの上昇率は前年同月比5.0%と2月（6.0%）から減速し、ダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想（5.1%）を下回った。インフレ基調を測る上で重視される前月比の上昇率も0.1%と市場予想（0.2%）以下だった。利上げの長期化で景気が一段と悪化するとの見方が薄れ、原油先物の買いにつながった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）は、3月30日～4月5日の間、77.30～85.20ドルの範囲で推移した。4月6日84.40ドル、7日85.00ドル、10日84.80ドル、11日84.70ドル、12日85.60ドルで推移した。

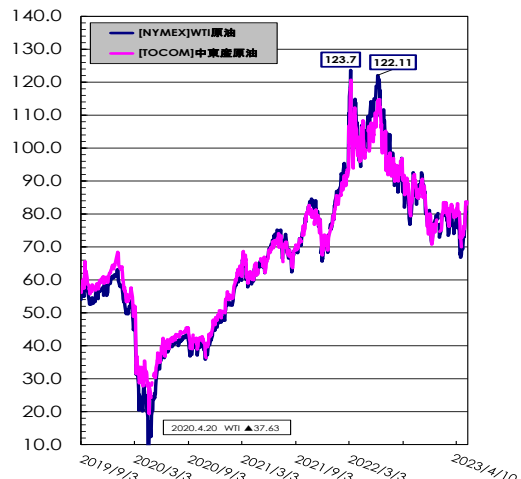
為替は、3月30日～4月5日の間、131.57～133.53円の範囲で推移した。4月6日131.19円、7日131.78円、10日132.62円、11日133.48円、12日133.78円で推移した。

財務省が4月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格は、72,730円で、前旬比524円高、ドル建て84.89ドルで前旬比0.88ドル安、為替レートは1ドル/136.19円だった。

そのような中で、4月10日時点の価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同1円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は2週ぶりの値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は168.3円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は17.2円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/2～4/8	2,903 ▼-42	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	78.3 ▼-1.2	▲-
	原油在庫量 (千kl)	4/8	10,996 ▲836	▲-
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	4/10	83.75 ▲1.64	▼-12.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/10	79.74 ▼-0.68	▼-14.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	84.89 ▼-0.88	▼-6.96
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	72,730 ▲524	▲5,802
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	136.19 ▼-2.35	▼-20.34
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/10	133.62 ▲0.53	▼-7.99

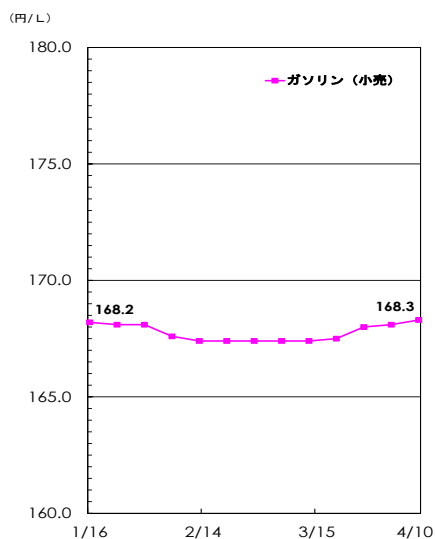
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/2 ~ 4/8	938 ▲ 36	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	855 ▲ 25	▲ -	
	輸出	"	7 ▼ -59	▼ -	
	在庫	4/8	1,659 ▲ 76	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/4 ~ 4/10	76.5 ▲ 0.3	▼ -3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/4 ~ 4/10	73.0 ➡ 0.0	▼ -3.0
		(TOCOM/中部)	4/10	75.2 ▲ 1.1	▼ -5.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/10	168.3 ▲ 0.2	▼ -5.7	

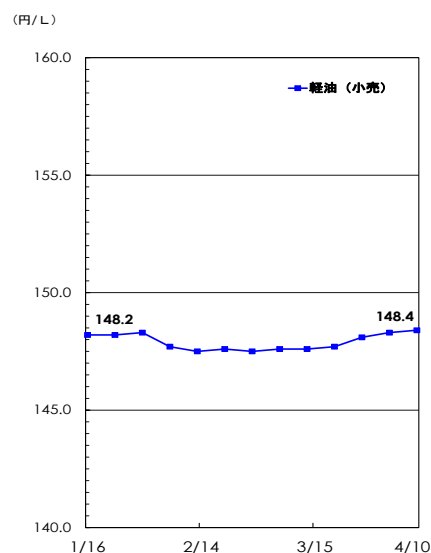
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

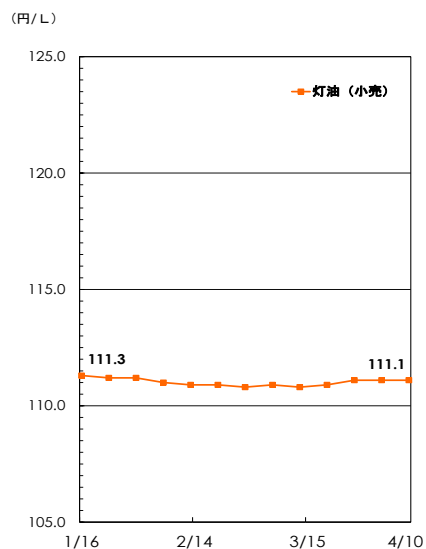
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/2 ~ 4/8	712 ▼ -21	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	572 ▼ -16	▼ -	
	輸出	"	17 ▼ -192	▼ -	
	在庫	4/8	1,228 ▲ 123	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/4 ~ 4/10	76.9 ▲ 0.2	▼ -4.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/4 ~ 4/10	79.0 ▲ 0.3	▼ -12.9
		(TOCOM/中部)	4/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/10	148.4 ▲ 0.1	▼ -5.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/2 ~ 4/8	168 ▼ -27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	235 ▲ 73	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/8	1,202 ▼ -66	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/4 ~ 4/10	77.0 ▲ 0.3	▼ -3.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/4 ~ 4/10	75.0 ➡ 0.0	▼ -5.5
		(TOCOM/中部)	4/10	76.3 ➡ 0.0	▼ -3.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/10	111.1 ➡ 0.0	▼ -3.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(4月6日~12日)のWTI石油先物市場は、6日の80.70ドルで始まり、週明け10日は、79.74ドルと反落したが、11日は、「OPECプラス」の一部の減産が需給の引き締めまりにつながるとの見方が改めて意識され相場が支えられたこと等から反発、12日も続伸し、5月限の終値は前日比1.73ドル高の83.26ドルで終わった。

なお、4月12日発表の7日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比60万バレル増と、在庫取り崩しとの市場予想を覆したが、影響は限定的だった。

EIAによると、4月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比9.9セント値上がりの1ガロン3.596ドル(126.8円/ℓ)と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比0.7セント値下がり1ガロン4.098ドル(144.5円/ℓ)と10週連続の値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、4月6日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比2基減の590基と2週連続で減少した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石週通報によれば、2023年4月2日~4月8日に休止したトッパー能力は29.1万バレル/日で、前週に対して2.9万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は290.3万klと、前週に比べ4.2万kl減少。前年に対しては3.9万klの増加。トッパー稼働率は78.3%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては3.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリンが増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/4.0%増、ジェット/2.8%減、灯油/13.7%減、軽油/2.8%減、A重油/11.9%減、C重油/6.0%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比7.2万kl減)。軽油の輸出は1.7万kl(前週比19.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて、ガソリン、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、灯油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は85.5万kl(対前週3.0%増)と3週連続で増加

した。ジェット3.2万kl(対前週52.1%減)、灯油23.5万kl(対前週44.7%増)、軽油57.2万kl(対前週2.8%減)、A重油17.6万kl(対前週4.7%減)、C重油15.5万kl(対前週7.2%増)。

(単位:千kl)

	今週 (4/2 ~ 4/8)	前週 (3/26 ~ 4/1)	前週比	
ガソリン	855	830	▲ 25	(3%)
ジェット燃料	32	67	▼ -35	(-52%)
灯油	235	162	▲ 73	(45%)
軽油	572	588	▼ -16	(-3%)
A重油	176	185	▼ -9	(-5%)
C重油	155	145	▲ 10	(7%)
合計	2,025	1,977	▲ 48	(2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月8日時点の在庫は灯油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは165.9万kl、前週差7.6万kl増。前年に対しては13.1万kl多い。

灯油は120.2万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては12.3万kl多い。

軽油は122.8万kl、前週差12.3万kl増。前年に対しては3.3万kl多い。

A重油は73.1万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては5.8万kl多い。

C重油は176.5万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては30.2万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (4/8)	前週 (4/1)	前週比	
ガソリン	1,659	1,583	▲ 76	(5%)
ジェット燃料	783	704	▲ 79	(11%)
灯油	1,202	1,268	▼ -66	(-5%)
軽油	1,228	1,105	▲ 123	(11%)
A重油	731	717	▲ 14	(2%)
C重油	1,765	1,751	▲ 14	(1%)
合計	7,368	7,128	▲ 240	(3.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月4日～4月10日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートは僅かな円高となり、元売会社の円建て原油コストは、4.5円値上がりしたものと見られる。

上記コストに先週の補助金額11.9円を加え、今週の補助金17.2円を差し引いた、4/13～19の実質的な元売会社の卸価格は0.8円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月4日～4月10日の製品スポット市況は、3月28日～4月3日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(4/4～4/10)の陸上スポット価格平均値は、前週(3/28～4/3)比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/4～4/10)に、前週(3/28～4/3)比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.3円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (4/4～4/10)	前週 (3/28～4/3)	前週比
スポット価格	レギュラー	76.5	76.2	▲ 0.3
	灯油	77.0	76.7	▲ 0.3
	軽油	76.9	76.7	▲ 0.2

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (4/4～4/10)	前週 (3/28～4/3)	前週比
先物価格	レギュラー	73.0	73.0	→ 0.0
	灯油	75.0	75.0	→ 0.0
	軽油	79.0	78.7	▲ 0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/4～4/10実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.3	→ 0.0	▲ 0.2
灯油	▲ 0.3	→ 0.0	▲ 0.1
軽油	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.3
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の168.3円、軽油も0.1円高の148.4円、灯油は18%ベースで1円高の2,000円(1%ベースでは±0.0円の111.1円)。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて都道府県別には、値上がりは26府県、横ばいは5県、値下がり16都道県だった。全国最安値は宮城県の161.7円、その次は岡山県の162.5円であった。他方、最高値は長崎県の178.6円だった。

最も値上がりしたのは徳島県(前週比1.9円高)、横ばいは静岡県他5県、最も値下がりしたのは東京都(同1.0円安)だった。

次回調査時(4/17)のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (4/10)	前週 (4/3)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	168.3	168.1	▲ 0.2	08/8/4 185.1
	灯油	111.1	111.1	→ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	148.4	148.3	▲ 0.1	08/8/4 167.4

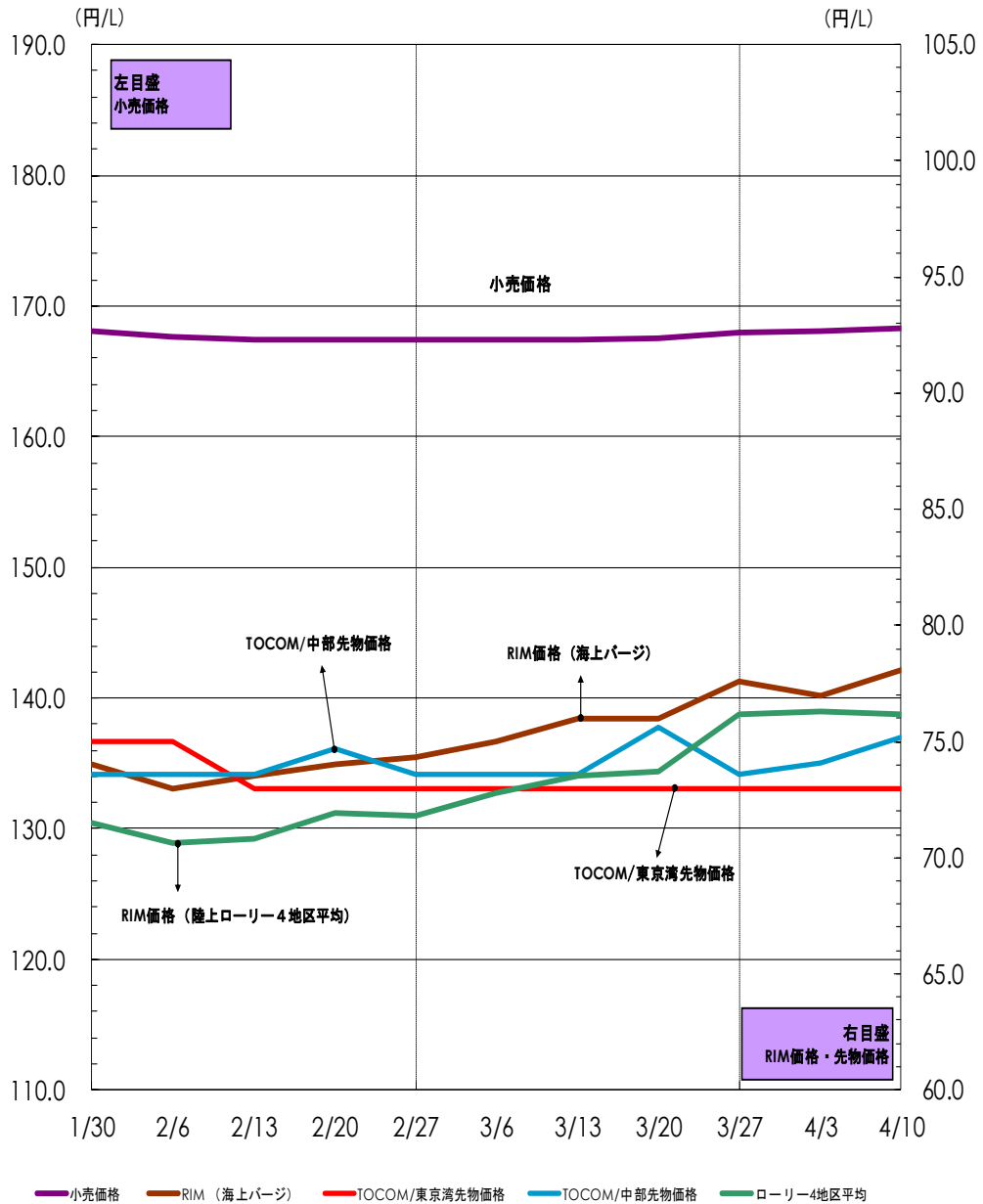
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/1/30 ~ 2023/4/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第3号)の公表は、4/21(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。